

資料 F- 1ページ

(法第28条第1項)

2025 年度の事業報告書

NPO 法人犬と猫のためのライフポート

1 事業の成果

- ① の事業では、千葉県・茨城県・柏市の3自治体の保健所から、犬49頭、猫157頭の合計206頭を引き取り保護した。また前年度に引き続きスタッフ教育の強化を行った。施設の増改築は修繕およびメンテナンスにとどまった。※山梨県・福井県・静岡県・船橋市との協力関係は継続しているがタイミング等のミスマッチで受入は行わなかった。
- ② の事業では犬79頭、猫139頭の合計218頭を新しい飼い主に譲渡した。飼育管理効率の指標である保護から譲渡までの平均滞在日数は、犬61日、猫75日であった。また保護後の死亡率は犬1.9%、猫1.3%であった。また譲渡した犬のうち、少年犬および成犬（※）は29頭、生後1年以上の成猫は24頭であった。 ※生後半年以上を少年犬、1歳以上を成犬と称する。
- ③ の事業では、幼齢不妊手術に関するホームページの訪問者数はのべ約1900人、飼育やしつけに関するホームページの訪問者数はのべ約4万9千人であった。
- ④ の事業では①で保護した犬52頭、猫121頭に不妊手術を実施した。
- ⑤ の事業では、より多くの方に向けて情報を発信するため、動画での活動報告や犬猫の紹介を開始した。なお、全事業の合計ホームページ訪問者数はのべ約18.9万人であった。
- ⑥ の事業では、新規事業開拓のためのニーズの調査、分析等を実施した。
- ⑦ の事業は、計画をしていたものの人員不足から実施しなかった。

2 事業の実施に関する事項

(1)特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数
①行政施設で殺処分される犬猫を引き取り保護・飼育する施設（アニマルシェルター）を運営する事業	保健所や愛護センターなどの行政施設で殺処分直前の犬猫を施設に保護して、譲渡のための健康管理やしつけ等を行う。 また、譲渡が困難な犬猫については、施設で生涯飼育する。	随時	法人事務所	21名	千葉県、茨城県、福井県、静岡県、山梨県、船橋市、柏市の7自治体

資料 F-2ページ

②行政施設から引き取った犬猫に不妊手術を施し、新しい飼育者へ譲渡する事業	前記事業で保護した犬猫たちに不妊手術を施し、新しい飼い主に譲渡する。	随時	全国	15名	犬猫の飼育を希望する不特定多数
③幼齢避妊去勢手術の普及と犬猫の適正な飼育を啓発する事業	団体ホームページで幼齢不妊手術についての情報提供や啓発を行う。	随時	法人事務所	2名	不特定多数
④幼齢避妊去勢手術を主たる目的とした動物病院事業	団体が保護中の犬猫の不妊手術および、保護団体や個人が保護する犬猫を対象に、幼齢不妊手術外来を提供する動物病院を運営する。	随時	法人事務所 所属の動物病院	5名	犬猫を保護する団体や個人
⑤この法人の特定非営利活動に係る事業に関する情報提供・サービス事業	主にインターネットを通じて、前記事業すべてに対する情報発信を行う。	随時	法人事務所	3名	不特定多数
⑥その他この法人の目的の達成のために必要な事業	新規事業を模索し、開拓し、立ち上げるために必要な調査・研究・準備等を行う。	随時	全国	2名	不特定多数

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数
⑦ ・ペットホテル事業、 ・ペット霊園事業 ・通信販売事業 ・損害保険代理業 ・ドッグラン事業 ・物品販売事業 ・飲食事業 ・前号に該当しない動物病院事業	本来事業の助けとなるよう、定款に規定されたその他の事業についての調査および研究を行う。	随時	法人事務所	0名

以上

2025 年度 活動報告

いつも当団体活動をご支援くださり誠にありがとうございます。2025 年度の活動報告をさせていただきます。

<これまでの経緯と現在地>

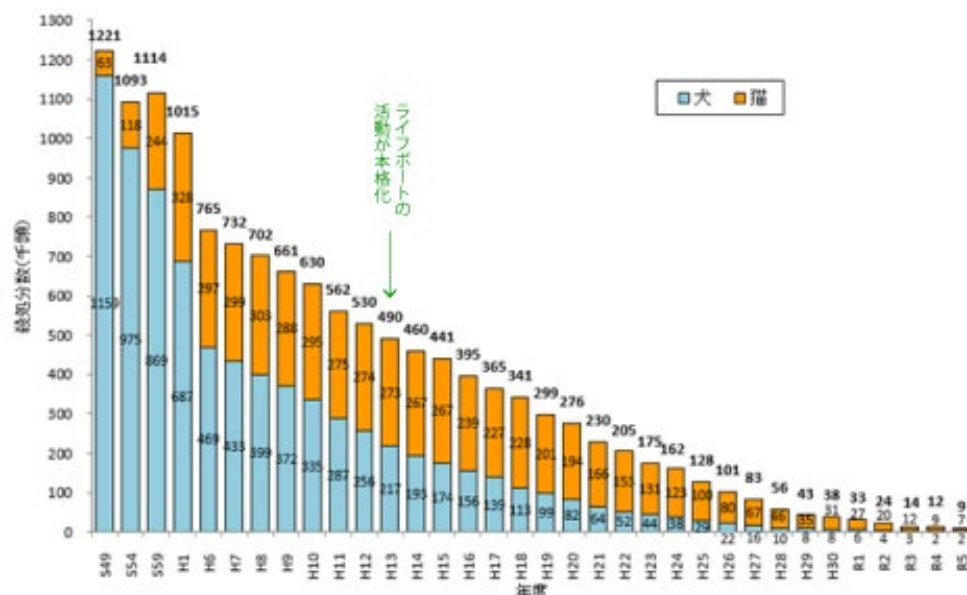
近年では殺処分問題をとりまく状況が大きく変化しましたので、まずは当団体の活動の経緯と現在地のお話をさせていただきます。

当団体が活動を本格化した 2001 年頃には年間 50 万頭の犬猫が殺処分されていました。当時の状況の中で「一頭でも多くのいのちを救う」ために、選択と集中のコンセプトで、譲渡しやすい子犬子猫を中心に保護する方針を取りました。比較的里親さんが見つかりやすい犬と猫を保護し、施設でお世話し、一日でも早くもらっていただくことで次の子を救う。こんなことをひた向きに続けてきました。このコンセプトが一定の成功を収め、これまでに 2 万 2 千頭以上の犬と猫を救うことができました。

あれから 20 年以上が経ち、今では年間の殺処分数は 1 万頭を切るまでになりました。

同じ年に保健所から救われた犬と猫は 3 万頭近くいますので、数字だけ見れば殺処分ゼロはもう目の前にあるように思えます。

全国の犬・猫の殺処分数の推移



※ 出典 環境省統計資料

資料 F-4ページ

しかし、当団体はここからまだまだ厳しい状況が続くと考えています。

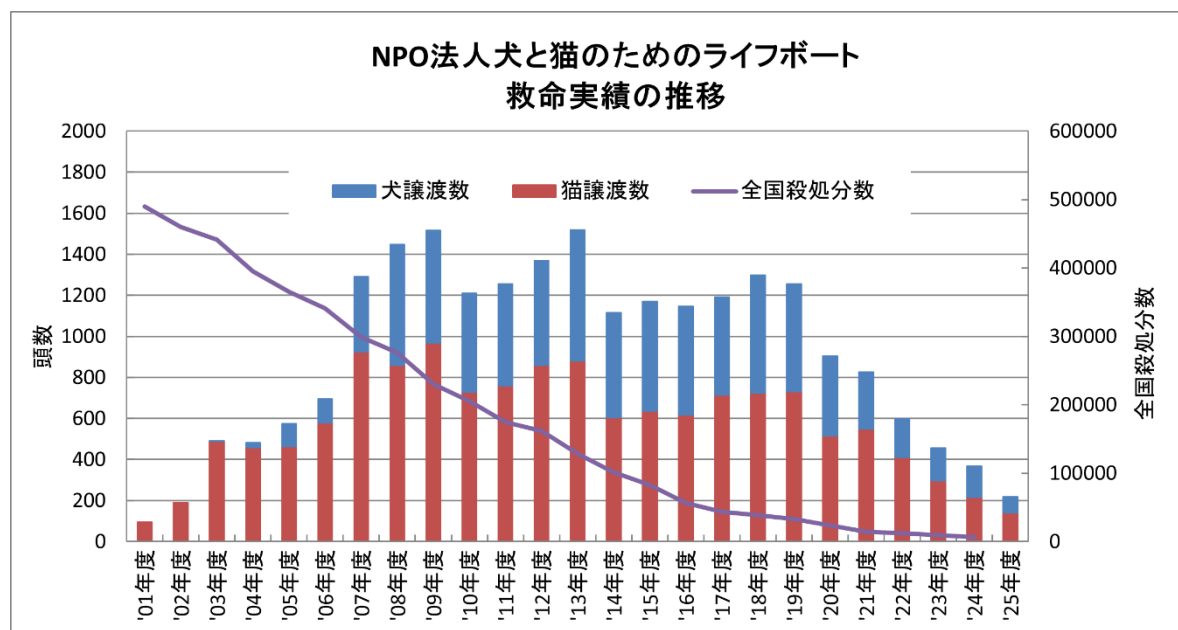
その大きな理由の一つが譲渡が難しい動物たちの存在です。なぜなら殺処分されてしまった犬約 2000 頭のうち 8 割以上が成犬だからです。これは性格やハンディキャップ、要介護状態などにより新しい飼い主さんを探すのが難しい犬たちであることを意味します。

猫は約 7000 頭のうち成猫は 3000 頭と、犬に比べたら割合は少ないですが、やはり同様に譲渡が難しい子が大半だと推察されます。また離乳していない赤ちゃん猫が 4000 頭も処分されています。統計から衰弱している子が大半であることが読み取れ、助けようと思えば人間が 24 時間体制でお世話する必要がある子たちです。

かつてに比べて多くの保護団体や個人が活動に力わり、行政機関も命を救う方針に転換していますが、それぞれが今でも限界まで保護しているはずで、更に毎年数千頭の、しかも譲渡が難しい子たちを保護することは簡単ではありません。

<活動モデルの転換を模索しています>

子犬子猫を中心に保護するコンセプトは、結果として活動資金面でも上手く機能しました。一つは、新しい飼い主さんに保護費用の一部を負担してもらうことで活動資金を賄うことができたことです。そして、もう一つは、里親さんが支援者になってくださることが多いことです。新しい家族に出会えた里親さんが活動に共感して、その後長期にご寄付をくださったり、次の子をもらっていただくことも少なくありません。わかりやすい実績を挙げることで応援していただきやすい活動になり、里親さん以外の多くの方々にご支援いただけたことも運営に寄与しました。



資料 F-5 ページ

こうしたことが上手く噛み合って、実績を挙げつつ活動してきた当団体ですが、前述のとおり状況が大きく変わったため、譲渡が難しい犬猫の保護に取り組み始めています。

これは、従来の活動モデル「子犬子猫を中心に保護する」「たくさんの子を譲渡する」「これらをもって支援してもらう」という全ての要素が機能しなくなることを意味します。

<人間の犠牲を置き去りにしてきた側面>

もう一つ、今後のことを考える上で触れておかなければいけないことがあります。

それが、多くの犬猫を助けるために、人間を犠牲にしてきた側面があることです。

幸いにも有給スタッフを中心に活動することができている当団体ですが、そうは言っても待遇が良いとは言えず、2007 年に千葉県からの受入が始まり極端に動物の数が増えた当時、スタッフは皆一律月額 13 万円くらいの固定給与で働いていました。当然ボーナスも交通費も無く、週 1 日のお休みで働いていました。その 1 日の休みさえなくなることも多く、13 連勤するようなことはザラにありました。しかも 1 日の労働時間は長く、朝早く出勤して日付が変わってから帰宅するような日も少なくありませんでした。働き方改革などの社会的な機運の高まりも受けて、法令に則ってようやく社会保険に加入できたのは 2019 年で、ごくごく最近のことです。献身で成り立っていると言えは聞こえはいいですが決して褒められたものではありません。

新しい試みをしていたわけですから、当然誰かが苦勞してスタートするのは当たり前です。あの時期が無ければ今のライフボートは無かったとも思っています。しかし、働くスタッフの定着は難しく、年月を重ねるごとにスタッフの平均年齢も上がり、採用も難しくなり、今は資金難よりも先に人手不足で破綻するリスクも抱えています。働き方改革によりスタッフ一人一人が働ける時間が大きく減少した影響も小さくありません。少子高齢化の日本ですから、当団体だけの問題とは思いませんが、いずれにしても今直面している成犬成猫たちは、今後 10 年以上にわたる保護が必要な子たちですので、持続可能な活動が必要です。

ここまでは当団体のスタッフの話でしたが、ボランティアが大半のこの活動において、日々自費で活動する彼らの貢献はとても大きなものです。また批判的にされがちな行政機関で働く職員も人間です。本当は助けたいという感情と、行政機関を運営する責任の間に挟まれて苦勞する彼らのことも忘れてはいけません。

<いま掲げている目標>

資料 F-6 ページ

上記のようなことを踏まえて、当団体では 2023 年度から下記の目標を掲げ、2025 年度も同様に活動して参りました。

◆2028 年までに、一部の人や団体だけを犠牲にすることなく、殺処分ゼロを実現する自治体を新たに作る◆

人間の医療や福祉でも問題になっていますが、動物の保護活動も一部の人々の犠牲によって成り立っているのが現実です。献身と言えば聞こえがいいですが、それだけでは今後 10 数年生きる動物たちを数多く抱えて活動が続けていくことはできません。

こうした思いから、単純に殺処分ゼロを掲げるのではなく、具体的な道筋と在り方をイメージできる目標として掲げてきました。

◆猫を年間 500 頭譲渡する◆

猫は依然として保健所に持ち込まれる子が多く、譲渡による救命が大きな柱であるため数値目標を設定しました。

◆2028 年度末までに成犬の収容能力を二倍にする◆

譲渡が容易な子犬の殺処分問題はほぼ解決し、行き場のない成犬たちの救命が最後のハードルになっています。収容能力とは単にスペースがあるというだけではなく、一頭一頭に十分なお世話が行き届き、ご家庭には及ばないものの犬たちが元気に幸せに暮らしている状態をいいます。

<各目標に対する活動状況>

◆2028 年までに、一部の人や団体だけを犠牲にすることなく、殺処分ゼロを実現する自治体を新たに作る◆

3 月に東京都 御蔵島の猫の受入を行いました。

御蔵島は東京都心の南約 200km にある人口 300 人の島で、イルカウォッチングなどの自然観光が有名な場所です。

御蔵島では在来種のオオミズナギドリを、かつて人が持ち込み野生化した猫たちが大量に捕食



してしまい、その数が年々減っていることが問題になっていて、鳥も猫も守るために島の人やいくつか

資料 F-7ページ

の団体が協力して猫の保護と譲渡を行っています。そんな団体の一つである「合同会社みくらボ」様からオファーをいただき、試験的に2匹の猫の受入をしたものです。

ライフボートの保護状況は前述のとおりですので、猫小屋に余裕が出始める冬の時期、助けを待っている動物がいれば保護したいと考えていました。

そんな時にお話をくれたのがみくらボ様でした。

ライフボートは保健所を専門に活動してきた団体ですが、島の活動には村役場をはじめ国立研究所など公共性の高い機関が関わっていますのでその主旨には食い違いが無いと判断したものです。

ライフボートが協力することで御蔵島の問題が解決に近づけば、この目標へ向けた第一歩にもなると考えています。私たちがどこまで力になれるかわかりませんが、当団体の創業夫妻がそうであったように、まずは行動しなければ始まらないだろうという想いで取り組むことにいたしました。

◆猫を年間500頭譲渡する◆

猫は受入157頭、譲渡139頭と、500頭の譲渡目標に対して達成率28%にとどまりました。

数年前まで年間700頭を譲渡していたころと比べて半減していますが、この傾向は今後一層強くなると考えています。現在の状況では500頭の目標は現実味が無いため、数字の変更もしくは代わりになる目標を設定することを予定しています。

猫の受入と譲渡のデータ

猫	'18年度	'19年度	'20年度	'21年度	'22年度	'23年度	'24年度	'25年度
受入	810	770	560	591	468	284	230	160
譲渡 (うち成猫)	723 (40)	731 (61)	509 (52)	549 (48)	411 (35)	296 (26)	215 (35)	139 (24)
死亡	64	48	62	31	44	8	9	2
死亡率	8%	6%	11%	5%	9.4%	2.8%	3.9%	1.3%
平均譲渡日 数 *1	97日	81日	71日	54日	76日	79日	66日	59日
平均滞在日 数 *2	101日	89日	71日	70日	90日	87日	74日	75日

*1 受入から譲渡までの日数のうち、年度内の日数

*2 未譲渡の子も含む、受入から譲渡や死亡までの日数のうち、年度内の日数

◆2028年度末までに成犬の収容能力を二倍にする◆

資料 F-8ページ

本年度も既設犬舎の修繕やメンテナンスに留まりました。現在のシェルター用地のスペースも限界に
来ていますので、収容能力を増やそうと思えば新しい施設が必要です。来年度以降はこうしたことも視
野に入れて活動して参ります。

犬の受入と譲渡のデータ

犬	'18 年度	'19 年度	'20 年度	'21 年度	'22 年度	'23 年度	'24 年度	'25 年度
受入	634	510	329	266	228	170	135	54
譲渡 (うち成犬)	575 (66)	523 (69)	390 (84)	274 (16)	188 (39)	159 (31)	152 (31)	79 (29)
死亡	12	8	7	1	3	0	1	1
死亡率	2%	2%	2%	0.4%	1.3%	0.0%	0.7%	1.9%
平均譲渡日 数 *1	35 日	37 日	30 日	29 日	43 日	48 日	53 日	57 日
平均滞在日 数 *2	52 日	54 日	30 日	34 日	67 日	67 日	66 日	61 日

*1 受入から譲渡までの日数のうち、年度内の日数

*2 未譲渡の子も含む、受入から譲渡や死亡までの日数のうち、年度内の日数

<活動にかかわるデータ>

2025 年度の犬と猫の譲渡目標

年度目標	受入数	譲渡数（うち成犬・成猫）	平均滞在日数	死亡率
犬	-	-（50 頭）	30 日以下	5%以下
猫	-	-（50 頭）	60 日以下	10%以下
合計	-	500 頭（100 頭）		

2025 年度の犬と猫の譲渡実績

実績	受入数	譲渡数（うち成犬・成猫）	平均滞在日数	死亡数／死亡率
犬	49	79（29）	61	1／1.9%
猫	157	139（24）	75	2／1.3%
合計	206	218（53）	-	-

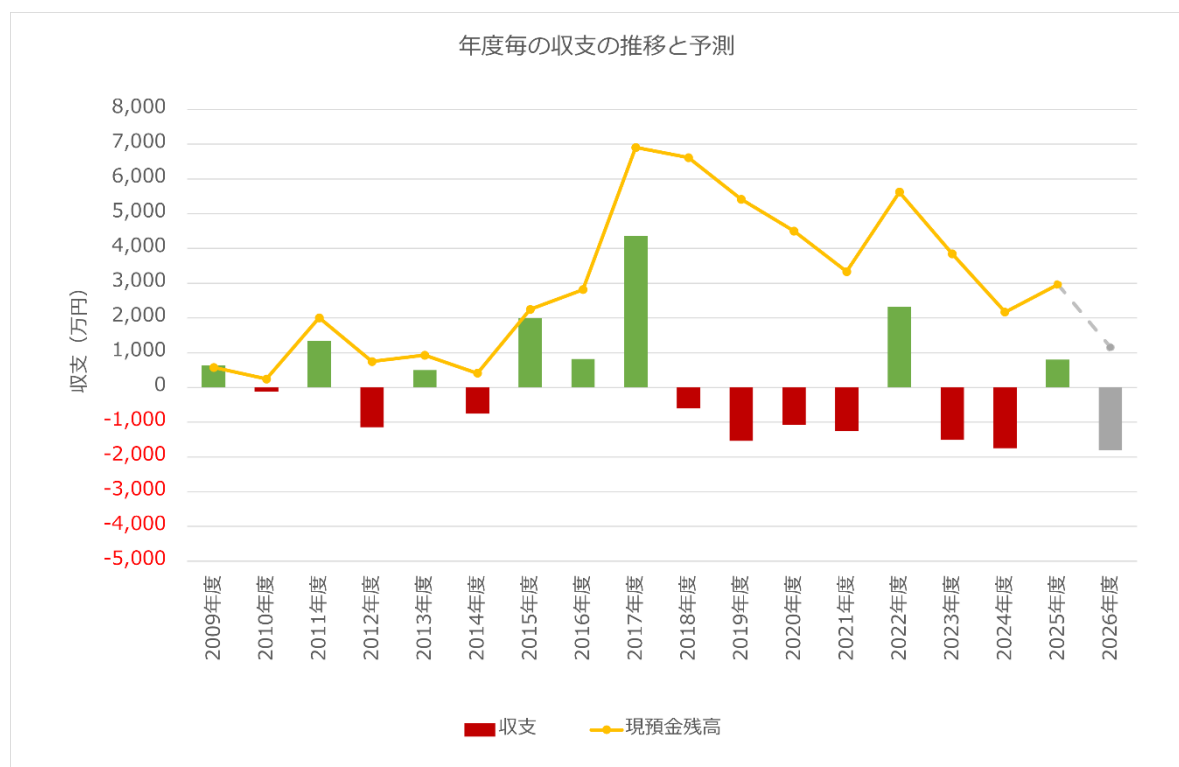
<収支・決算について>

資料 F-9ページ

ここ数年は1,500万円を超える赤字と非常に厳しい状況が続いたため、2025年2月25日から団体として初めてのクラウドファンディングに挑戦いたしました。幸いにも多くの方にご支援いただき2800万円を超えるご支援により当面の資金難は回避できる見込みです。この場をお借りして支援者の皆さまにお礼申し上げます。



上記はクラウドファンディング実施までの収支予測です。2025年度末には資金が底をつき、早々に資金ショートするリスクがありました。



こちらはクラウドファンディングの寄付金を受け取った2025年度決算後の収支予測です。おかげさ

資料 F-10ページ

で資金ショートリスクは軽減されました。もちろん本質的な資金繰りは依然として厳しいため、引き続き対策を行って参ります。

※物価や賃金上昇、譲渡収入減などを加味してない数字のためもっと厳しい状況になる可能性があります。

※2017年、2022年の黒字は多額のご遺贈によります。

以上が2025年度の活動報告です。

今後とも皆様のご支援ご声援をよろしくお願いいたします。

2026年5月17日

NPO 法人犬と猫のためのライフポート

理事長 稲葉友治